

実現に向けて：皆さんと一緒に進める取組です

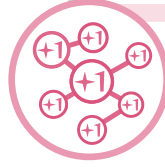
以下の3つの方針に基づき、まちなかに日常化にアクティビティ(行動・活動)が溢れるための取組や空間再編、仕組みづくりを進めていきます。

3つの基本方針



方針1 +1が生まれる居心地の良い目的地をつくる

滞在・交流を促進する空間整備と共に、アクティビティが日常的に生まれ、定着する場づくりを広げていきます。



方針2 歩き・滞在したくなるネットワークをつくる

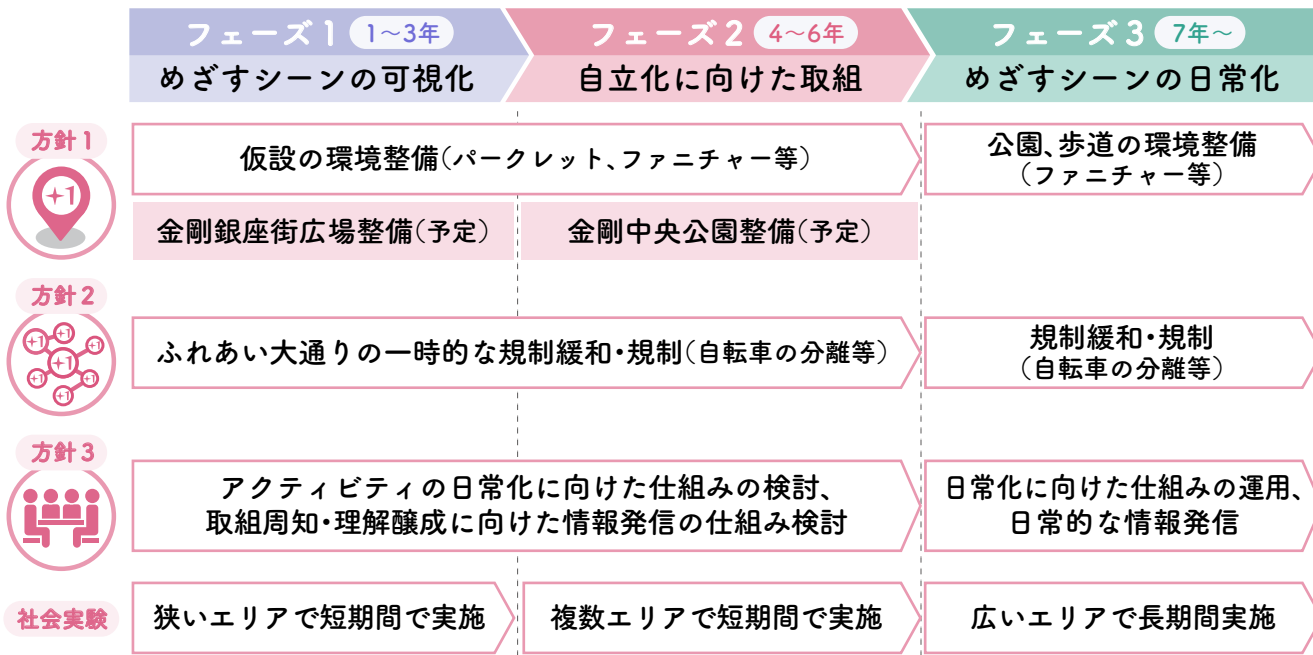
目的地を繋ぎふれあい大通り自体が目的地となる歩行空間整備等と共に、歩行者・自転車それぞれが通行しやすい安全で快適な環境づくりを進めます。



方針3 +1があふれ・つながる仕組みをつくる

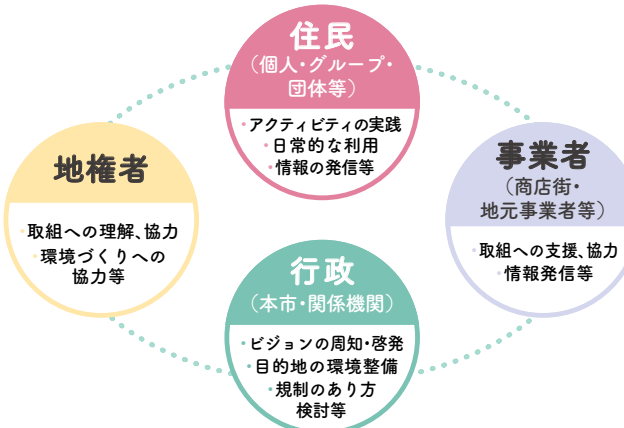
目的地が点在し、それをつなぐネットワークが機能するための基盤として、利用者と行政、地権者等が共に考え、協力・連携して実践するための仕組み・体制づくりを進めます。

取組みのステップ(主な取組)



取組の役割分担

めざすまちの姿「+1(プラスワン)」が生まれる、見つかる！」を実現するには、住民や事業者、行政など関わるすべての人の協力と連携が必要です。



金剛駅
周辺の

ウォーカブルな空間づくりの取組の情報について

住民、事業者等による推進チームが主体となり、10年後のめざす姿を仮想的に実現し、検証を行う社会実験「OPEN STREET+」を令和6年度から実施しています。推進チームや社会実験等については、市ウェブサイトやInstagram、Facebookで発信しています！



市ウェブサイト



Instagram



Facebook

金剛駅周辺 まちなか ウォーカブルビジョン

概要版

令和7年3月 富田林市



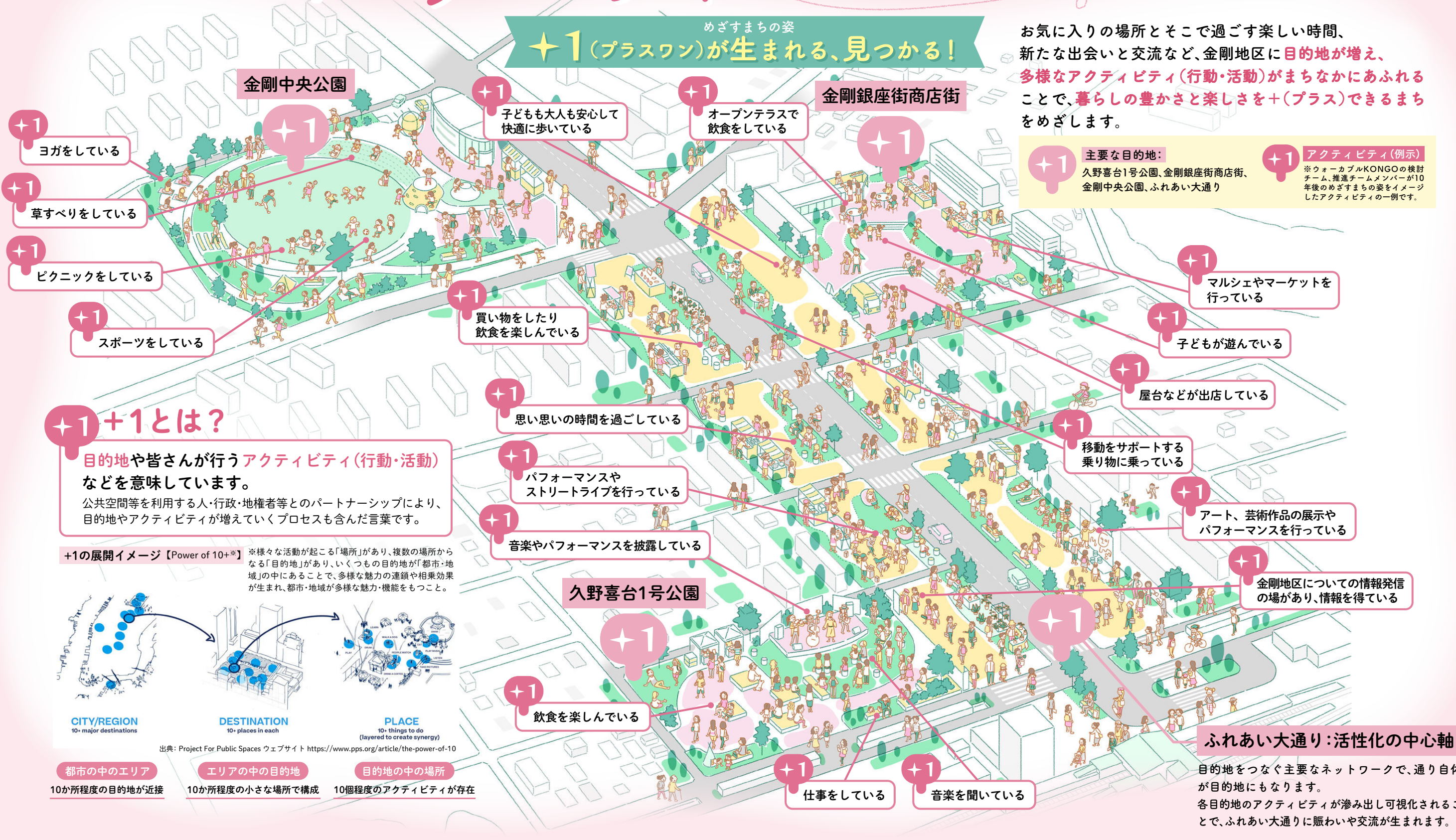
ウォーカブルなまちづくり こんなまちをめざしています

めざすまちの姿
★1(プラスワン)が生まれる、見つかる!

お気に入りの場所とそこで過ごす楽しい時間、
新たな出会いと交流など、金剛地区に**目的地が増え、**
多様なアクティビティ(行動・活動)がまちなかにあふれる
ことで、**暮らしの豊かさと楽しさを+(プラス)できるまち**
をめざします。

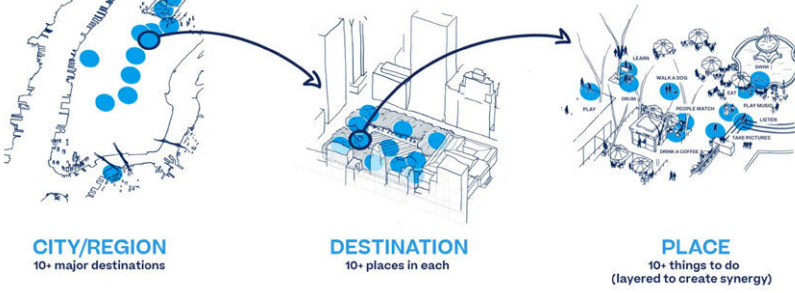
★1 主要な目的地:
久野喜台1号公園、金剛銀座街商店街、
金剛中央公園、ふれあい大通り

★1 アクティビティ(例示)
※ウォーカブルKONGOの検討
チーム、推進チームメンバーが10
年後のめざすまちの姿をイメージ
したアクティビティの一例です。



★1 +1とは?
目的地や皆さんが行うアクティビティ(行動・活動)などを意味しています。
公共空間等を利用する人・行政・地権者等とのパートナーシップにより、目的地やアクティビティが増えていくプロセスも含んだ言葉です。

+1の展開イメージ【Power of 10+】
※様々な活動が起こる「場所」があり、複数の場所からなる「目的地」があり、いくつもの目的地が「都市・地域」の中にあることで、多様な魅力の連鎖や相乗効果が生まれ、都市・地域が多様な魅力・機能をもつこと。



都市の中のエリア
10か所程度の目的地が近接

エリアの中の目的地
10か所程度の小さな場所で構成

目的地の中の場所
10個程度のアクティビティが存在

ウォーカブルとは? 「居心地が良く歩きたくなる」「歩くのが楽しい」などの意味があります。

- 国は「居心地が良く歩きたくなるまちなか」として、「WE DO」(Walkable, Eye level, Diversity, Open)をテーマにウォーカブルなまちづくりを推進しています。
- 世界中の多くの都市で、街路空間を車中心から「人間中心」の空間へと転換し、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられる場としていく取組が進められています。

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の4つの共通する特徴

Walkable(ウォーカブル) 歩きたくなる	Eye level(アイレベル) まちなかに開かれた1階
Diversity(ダイバーシティ) 多様な人の多様な使い方	Open(オープン) 開かれた空間が心地良い

金剛駅周辺ウォーカブルエリア

南海金剛駅を起点とし、金剛中央公園までの約520mにわたる「ふれあい大通り」を中心に、滞在快適性等向上区域(ウォーカブルエリア)を設定し、回遊性・滞留性の向上や賑わいづくり、住民主体の多様な取り組み、交流機会を創出するウォーカブルなまちづくりをめざしています。